



七尾市

第三者継承に向けた取組

組織名	農事組合法人なたうち(代表:村田 正明)	農業地域類型	中間農業地域
経営理念	ひと声一汗みんなで築こう豊かなふるさとなたうち	社員等	構成員41名、常時雇用8名
経営面積	86.0ha(水稲52.0ha、大麦17.0ha、ソバ10.0ha、大豆9.4ha)		

1. 経緯

- 平成の合併(平成16年)以降、七尾市鉦打地区では過疎化が進み、高齢化による離農や耕作放棄地が拡大していた。
- 地域農業の存続に危機感を持った農業者が、平成21年に七尾市等と連携して「鉦打米(なたうちまい)のブランド化」や「一地区一農場化の実現」等の戦略を掲げ、法人による大規模経営や若者の雇用を目指した。
- 地区内7集落の農地約130haを区画拡大(30a~1ha)するほ場整備に併せて農地を集積するため、面工事が完了した集落の生産組合を母体にして、平成27年1月に農事組合法人なたうちを設立。
- 用排水路や農道の整備などの保全管理は同年に立ち上げた「美土里ネットなたうち」の活動組織が集落単位で行っている。

2. 課題と対策

- 農業の将来への不安から後継者の確保は難しい。
- 主力の「鉦打米」の知名度向上に力を入れて単価アップにつなげ、儲けを増やして持続可能な魅力ある法人を目指す。

3. 特徴的な取組や工夫していること

- 地権者187人のうち、経営に関心を持つ41人を構成員とし、役員が事前協議した方針により迅速に組織の意思決定を行っている。
- ほ場や貯水池にセンサーを設置し、スマートフォンで水位の計測値を把握することで日々の水まわりの作業の省力化を図っている。また、営農記録のデータ化、ドローンによる防除、乾田直播や密苗田植え拡大により更なる省力化を実現している。
- 首都圏から自然豊かな地域への移住を考えていた若者(CAD・CGクリエイター)がインターンシップを経て夫婦で就労。ほ場の図面や営農記録をクリエイターのスキルを活かして勤怠管理等のデータ管理をするなど、農作業以外のスマート化に取り組んでいる。
- 昔ながらの経験則ではなく、作業工程の数値化、IT化、スマート化により、経験が少ない若者でも結果が出せるような農業を目指している。
- 美土里ネットなたうちは、農業体験・交流や移住希望者を積極的に受け入れ、関係人口増を担っている。また、空き家を含む住まいを確保するなどの受け入れ態勢を整えている。
- 若い従業員には、冬場の作業として味噌や漬物の加工を任せているが、高齢の従業員には「冬場は充電」と称して休んでもらい、人件費を抑えている。
- 主力の「鉦打米」は、味を高く評価している商系業者を中心に、食堂、福祉施設への直売やネット販売を行っており、収益の柱となっている。
- 共同乾燥調製施設の整備により、近隣の農業法人との栽培契約が可能となり、「鉦打米」の生産拡大を実現。
- 無人直売所(3坪)を開設し、自社製造の味噌や地域の農産物を販売することで地域の農業者の所得向上につながっている。セルフレジやPay Payの導入により利便性を高めて売上増加につなげている。

4. 今後の目標

- スマート化を進めてより一層の省力化を図り、持続可能な営農の仕組みを構築して次世代への継承を目指す。



経営方針等話し合うミーティングルーム



貯水池の推移を計測するセンサー



平成28年に共同乾燥調製施設を整備(コメ・大麦・ソバ・大豆に対応)



省力化を図るスマート農機



小規模農業者からの乾燥調製を引き受ける施設



鉦打米コシヒカリ



自社製造の味噌や漬物



地域の農産物が並ぶ無人直売所

